

故大隅逸郎教授追悼会次第

日時 昭和三十九年十二月十一日午後一時
 会場 同志社大学明德館一番教室
 主催 同志社大学法学部
 同志社法学会

会

法学部長

八木鉄男

秋山哲治

一 同

西田毅

岡本清一

井ヶ田良治

杉江栄一

太田雅夫

学生代表

古川勝弘

挨拶
 黙禱
 故人の略歴と業績
 追悼のことば

閉会

故 大隅逸郎教授略歴および著作目録

略 歴

- 昭和四年一月六日 静岡県に生まれる
- 昭和二七年三月 同志社大学法学部法律学科を卒業
- 昭和二九年三月 同志社大学大学院法学研究科政治学専攻修了（修士課程）
- 昭和二九年四月 同志社大学人文科学研究所に就職
- 昭和三二年四月 同志社大学法学部嘱託講師
- 昭和三五年四月 同志社大学法学部専任講師
- 昭和三六年四月 同志社大学法学部助教授
- 昭和三九年二月二日 逝去、同日付をもって同志社大学法学部教授

著 作 目 録

論 説

中国・新民主主義政治論（修士論文）

中国新民主主義革命に関する一資料

昭和二九年

同志社法学二六号 昭和二九年

権力の概念規定について

同志社法学二九号 昭和三〇年

太平天国 —— 中国民主革命序曲 ——

同志社法学三八号 昭和三二年

戊戌百日維新

同大人文学研究所「紀要」創刊号 昭和三二年

压力団体の概念 —— トルーマンを中心として ——

岩波書店「政治学会年報」一九五九年度 昭和三三年

興中会から同盟会の成立に至る政治過程 ——

辛亥革命への序曲 —— 同志社法学六三号 昭和三六年

最近の中国における土台・上部構造論争 (一)・(二) —— スターリン「公式」の批判をめぐって ——

同志社法学六七号・六八号 昭和三六年

社会主義的政治範疇としての「民主主義と自由」について —— 中国社会主義政治の一考察 ——

同志社法学七八号 昭和三八年

清朝の「預備立憲」と「欽定憲法」 —— 辛亥革命前夜における「君主立憲」と「民主運動」(上) ——

同志社法学八五号 昭和三九年

「欽定憲法大綱」の破産と「十九信条」の頒布 —— 辛亥革命前夜における「君主立憲」と「民主運動」(中) ——

同志社法学八六号 昭和三九年

清末における婦人解放運動と女俠秋瑾 —— 辛亥革命前夜における「君主立憲」と「民主運動」(下) ——

同志社法学八八号 昭和三九年

辛亥革命

岩波書店「政治学会年報」一九六四年度 昭和四〇年

資料

京都地方労働運動史年表 全三部

同大人文学研究所、京都府労働経済研究所 昭和三二年

中国近代思想史

三一書房 昭和三二年

李達著「憲法論」（全訳）

同志社法学三〇号 昭和三〇年

吳家麟編著「憲法とは何か」（抜粋訳）

同志社法学三五号 昭和三一年

陳処昌著「マルクス主義国家論と二種類の矛盾の学説」

同志社法学六一号 昭和三五年

徐懋庸著「内と外、内因と外因について」

同志社法学六二号 昭和三五年

聞師潤著「科学的論断と予見」

同志社法学六五号 昭和三六年

斯水、李伯鈿共著「中国における史的唯物論上の諸問題に関する論争」

同志社法学六六号 昭和三六年

施向東著「中国革命の二つの段階の区別と連繫」

同志社法学六七号 昭和三六年

海波著「社会主義における権威の問題」——エンゲルスの「権威論」を読んで——

同志社法学七一号 昭和三七年

吳江著「発展過程における部分的な質的变化について」

同志社法学七二号 昭和三七年

舒焯光著「基本的な矛盾と矛盾の基本的な側面について」(一)・(二)

同志社法学七三・七四号 昭和三七年

李光燦・郭雲鵬共著「孫中山の哲学思想」(上)・(下)

同志社法学七五・七六号 昭和三七年・昭和三八年

聞師潤著「勢力を集中し、一つ一つ解決せよ」

同志社法学七七号 昭和三八年

吳傳啓著「政治と経済の弁証法」(上)・(下)——「資本論」における弁証法の問題に関する学習ノート——

同志社法学七九・八〇号 昭和三八年

張友漁著「ブルジョワ議会制民主主義の偽瞞性」

同志社法学八一号 昭和三八年

肖前著「条件を論ず」(上)・(下)

呂振羽著「歴史科学と毛沢東思想」(上)・(中)・(下)

丁守和著「レーニンと民族解放運動」(上)・(中)・(下)

同志社法学八二・八三号 昭和三八年・昭和三九年

同志社法学八四・八五・八六号 昭和三九年

同志社法学八七・八八・八九号 昭和三九年